

## 外部支援を活用した サーベイランス導入

伊田宏子 NPO法人HAICS研究会 学術担当

### ▶▶ はじめに

NPO法人 HAICS研究会（以下、HAICS）は医療関連感染（病院感染）制御を支援する「産・学・実践者協働」の特定非営利活動法人であり、その事業は医師・看護師からなるメディカルアドバイザー委員会（以下、MAC委員会）の指導により企画・実施しています。

HAICSは医療関連感染対策を支援するいくつかの事業を展開していますが、そのうち主たる事業が「サーベイランス導入支援」です。「サーベイランスを導入したいが、感染対策に関する専門家がない」「導入や運用の方法がわからない」という病院に、専門家であるアドバイザーが訪問し、サーベイランスの導入を支援します。病院の担当者を支援し、最終的にはサーベイランスを自力で継続していただけるようになることを目標にしています。

支援は、訪問支援とメールや電話による経常的支援により実施し、一つのサーベイランスの導入支援期間としては約7～9ヵ月かかります。具体的な支援の流れを図1に示します。

### ▶▶ 導入支援の実際

#### ■ 支援開始前

サーベイランス基本データとなる「手術に関する調査表」と「医療器具使用に関する調査表」を提出していただき、MAC委員会で支援の基本的な方法を検討します。この段階で、「サーベイランス可能な母数なのか」「サーベイランスを実施して有効なデータが集まるのか」などを検討し、病院からの希望も考慮して、導入するサーベイランスの種類を決定します。

支援が決定すれば、病院担当者と打ち合わせを行い、その病院にあった支援計画とタイムスケジュールを作成します。

#### ■ 院内講習会

導入支援スケジュールの初期段階で実施し、院内全体にサーベイランスの意義や目的を説明します。サーベイランスは担当者やICTだけで実施すればよいものではなく、院内全体で取り組み「サーベイランスに基づく感染対策を実施して、自分たちの病院をよりよい病院にしよう！」という認識を共有していただくことが大切です。そのためにも、この講習会は重要な位置付けになっています。

## 病院感染サーベイランス導入支援の流れ

## ★申し込み

- ・病院基本情報・主要デバイス（医療用具）の使用頻度・手術に関する情報・サーベイランス担当者などを調査票に記入。

## ★サーベイランス導入支援方法の検討

- ・調査票をもとにアドバイザー委員会で最適なサーベイランスの有効性と導入支援方法を検討。

## ★打ち合わせ

- ・アドバイザー委員会の検討結果をもとにサーベイランス導入支援の打ち合わせ。調査票の内容、サーベイランスを実践するうえでの院内体制など、その他必要事項および担当者の確認。

## ★院内講習会

- ※サーベイランス総論・概説に関する講習会
- ・サーベイランスとは何か？
- ・サーベイランスはなぜ必要か？
- ・サーベイランス実施の目的は何か？
- ・サーベイランス実施の課題は何か？
- ・サーベイランスの実施方法と各部門の協力体制は？



## ★サーベイランス実施に関する研修会

- ・データ収集方法・判定基準に関する研修。
- ・サーベイランス計画書、サーベイランスマニュアル作成について。

## ★プレサーベイランス開始

- ・作成した計画書・マニュアルを活用しプレサーベイランスを開始。

## ★プレサーベイランス評価

- ※プレサーベイランス開始約2週間後
- ・データの収集方法・サーベイランスマニュアル・判定基準の妥当性を検討し必要に応じて改訂。

## ★サーベイランス本稼働開始

## ★データ検討研修会①

- ※データ収集開始約3ヵ月後
- ・収集したデータのとりまとめ方・感染率算出方法に関する研修。
- ・感染症例の検討

## ★データ検討研修会②

- ※データ収集開始約5～6ヵ月後
- ・データの解析方法とそのフィードバックに関する研修。



- 上記期間中、定期的にHAICSの専門家が訪問やメールにより支援します。
- サーベイランスが適切に導入されるまで支援します。

図1 外部支援の流れ

## ■ 担当者研修会

サーベイランス担当者と関連する部門の方々を対象に開催します。「サーベイランス計画の立て方」「サーベイランス運用マニュアルの作成」「サーベイランスデータ収集の実際」「サーベイランスシートの作成」など、具体的な内容について、HAICSアドバイザーが説明しながら話し合っています。

## ■ プレサーベイランス・本サーベイランス

作成されたサーベイランス計画・マニュアルを用いてプレサーベイランスを実施していただきます。2～3週間後その結果を検証し、サーベイランス計画・マニュアルに必要な修正を加え本サーベイランスに突入してもらいます。

この期間がサーベイランス導入作業でもっとも大切な時期ですので、HAICSのアドバイザーも頻りにメールや電話で進捗を確認し、必要に応じて訪問支援を行います。

## ■ 感染症判定、データのまとめ方の研修会

本サーベイランス開始後ある程度データが収集された段階で、サーベイランスデータのまとめ方や感染症例の判定について担当者への研修会を開催します。

## ■ フィードバック方法の研修会と総括

サーベイランスを開始して約半年経過後、結果のフィードバック方法の研修会を開催します。関連部署の方々に集まっていただき、希望するフィードバックの内容や方法を話し合っています。最後にHAICSアドバイザーから支援の総括

を行います。

## ▶▶ 外部支援の有用性

外部支援のメリットとしては下記のようなものが考えられます。

- ①専門的な教育を受けた人材がいない病院でも、適切なサーベイランスを導入できる。
- ②HAICSは必ず複数のアドバイザーで支援を担当するので、自施設の担当者間でのディスカッションに加え外部の意見も入り、幅広い多様な意見を参考にすることができる。
- ③特に中小規模の施設では、専従・専任者をすぐに配置することが困難な場合も多く、外部支援を活用することにより時間的・経済的メリットが期待できる。
- ④外部支援を受けることにより担当者の感染対策に対するモチベーションが高まり、専門教育を受ける人材が育つ。また病院全体としても専従・専任者を望む機運が高まる。外部からのアドバイスの方が院内に受け入れられやすい場合がある。また作業がスケジュール通りに進む(外圧効果)。

## ▶▶ 外部支援の課題

支援側の検討課題を以下に3つあげます。

- ①本当に個々の病院にあった最適なサーベイランス導入支援を提供できているのかを、今後評価していく必要がある。
- ②アドバイザーは毎日院内にいるわけではないので、現場に密着したアドバイスができていくか

どうかと頭を悩ます場合もある。そのようなハンディキャップの克服策の検討が必要。

③私たちはあくまでもサポーターの立場であり、病院の組織活動に関する権限がないこと。

③に関しては、サーベイランスの導入と運用にあたっては組織を動かすことが必要なこともあり、もどかしく思う場合もありますが、「サーベイランスはあくまでも病院主体で行っていただくものだ」というスタンスは変えないようにしています。

## ▶▶ おわりに

サーベイランスの開始と継続にはいくつかの方法があります。ただ、どのような方法を採用にするにしても、「サーベイランスの計画・実施・評

価・フィードバックのサイクル（サーベイランスが適切に実施され、その結果が感染対策の質の評価に活用され、さらなる改善策につながっていく）」が一つでも多くの施設で実現することで、日本全体の医療の質向上へつながると考えています。サーベイランスの外部支援がその一助になることを目指しています。

## 文 献

- 1) 洪愛子, “サーベイランスシステム (院内感染の監視)”, NEW感染管理ナースング, 洪愛子編, 東京, 学習研究社, 2006, 102-9.
- 2) 青木眞, “サーベイランスとは”, 明日からできる病院感染サーベイランス, 青木眞監修, 大阪, メディカ出版, 2002, 2-53.
- 3) NPO法人HAICS研究会ホームページ,  
<http://www.haicsjp.com/>